学校番号	3018

令和2年度　地理歴史　　科

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	（ 2 ）単位	年次	（ 1 ）年次
使用教科書	世界史A　新訂版（実教出版）						
副教材等	歴史風景観　世界史のミュージアム （東京法令出版株式会社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史Aの授業は、現在世界で起こっている事象や諸課題について、その原因や背景を理解することで、現代を生きる私たちがその解決に向けて知識を得たり、考えたりする機会です。常に歴史的事象や現代に起こっている出来事について「なぜ」という視点をもって思考していくことが大切です。そして、歴史から学んだことを生かして、世界の国の諸事情をふまえ、現在の日本のあり方を考えていきましょう。授業に積極的に参加し，口頭でのやりとりや図を用いての表現など，アクティブラーニングの機会を生かしてほしいと思います。また、考査前の知識の整理をきちんと行って、歴史という時間軸を大きな枠組で理解してほしいと思います。

2　学習の到達目標

・近現代の諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・現代の諸課題について、近現代史を中心とする歴史と結びつけ歴史的観点から考察する力を身につける。
・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心に、地理・歴史的な事象に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する市民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的・地理的観点から見いだして，考察し、国際社会の変化をふまえて、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート提出 学習状況の観察	定期考査の結果 学習状況の観察	ワークシートの提出 学習状況の観察	定期考査の結果 学習状況の観察

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	世界史へのいざないと世界の一体化	・世界史へのいざない	○		○		a: 地理や歴史への関心を高めた上で、大航海時代以降のヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、欧州主権国家体制の成立、アジア諸帝国の繁栄、18世紀以降の諸地域の世界の様子等に対する関心を高め、意欲的に追求しようとしている。 b: 設定された時代の諸地域の特質を見いだし、世界商業の進展などに関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 設定された時代に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 d: 世界史学習の基本的技能に触れた上で、大航海時代以降のヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、欧州主権国家体制の成立、アジア諸帝国の繁栄、18世紀以降の諸地域の世界の様子等について理解し、その知識を身につけている。	定期考査の結果 ワークシートの提出 学習状況の観察
		・世界の一体化の始まり		○		○		
		・ヨーロッパの主権国家体制		○		○		
	近代の欧米社会	・イギリス産業革命と工業化社会の成立	○		○			
		・アメリカ独立戦争		○	○			
		・フランス革命とナポレオン戦争				○		
		・ウィーン体制とその崩壊	○	○				
前期期末	近代の欧米社会	・ラテンアメリカの独立	○				a: 18世紀後期から19世紀までのヨーロッパ・アメリカを扱い，工業化と国民形成が進行したことに関する関心を高め、意欲的に追求しようとしている。 b: 18世紀後期から19世紀までの近代ヨーロッパの国際政治で展開されたことについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 18世紀後期から19世紀までの時代の特質、ナショナリズムの性格や国民国家の形成要因、その影響に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 d: 18世紀後期から19世紀まで時代の基本的な事柄や、国民国家の形成の時代背景についての基本的な事柄を、国民形成という観点と関連づけて理解し、その知識を身につけている。	定期考査の結果 ワークシートの提出 学習状況の観察
		・イギリスの覇権と自由主義改革	○			○		
		・イタリアとドイツの統一、ロシアと東方問題		○	○	○		
		・ヨーロッパ国民国家の発展		○	○	○		
		・アメリカ合衆国の拡大と南北戦争		○	○			
後期中間	帝国主義とアジア	・インド・東南アジアの植民地化	○	○			a: アジア諸国の植民地化とヨーロッパの近代文明との接触に伴う伝統文化の変容に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b: ヨーロッパ諸国の進出により伝統的な国家体制や貿易の仕組みも変化を余儀なくされたことについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌をついて史料から有用な情報を適切に選択して、地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史の空間的なつながりに着目して整理している。 d: ヨーロッパ文明の導入と近代化の過程についての基本的な事柄を把握し、その知識を身につけている。	定期考査の結果 ワークシートの提出 学習状況の観察
		・東アジアの動揺と国際秩序の変容	○	○				
		・欧米による世界の植民地化	○			○		
		・民族運動と列強の対立		○	○			
後期期末	地球社会と日本	・二つの世界大戦	○	○			a:地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程に興味・関心をもち、意欲的に追究しようとする。 b: 二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響について理解した上で、人類史的視野から、持続可能な社会の実現について考察する。 c:市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合や地域紛争などの問題について、それに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 d:2つの世界大戦と戦後の冷戦、そして日本の動向やアジア・アフリカの独立についての基本的な事実を把握し、現代社会につながる知識をみにつけている。	定期考査の結果 ワークシートの提出 学習状況の観察
		・冷戦の時代	○	○				
		・冷戦下の日本			○			
		・グローバル化の進展	○		○	○		
		・変貌する世界と諸地域		○	○			
		・日本の現状と未来への模索		○		○		

※ 表中の観点について　　a: 関心・意欲・態度　　b: 思考・判断・表現
c: 資料活用の技能　　d: 知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点
・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。